

藤・戸田  
地区
保護司会だより
第5号



和楽備神社のおかめ市 毎年12月17日、手締めと威勢のいい声が飛び交う境内には縁起物の熊手が並びます

泉房穂明石市長が、住民に最も近い基礎自治体の責務・役割として、罪を犯した人に対する更生支援も含め、必要な方に必要な支援をすることは「あたりまえ」と有言実行なさっていることに大変感銘を受けました。

当職はこの四月にさいたま保護観察所長を拝命するまでは、仙台保護観察所長を三年間務めていました。壊滅的な被害を受けた地域にも何度も足を運びましたが、その被害の爪痕はなお深刻でした。そのような地域において、自らも被災しながらも、なお保護司、更生保護女性会員を続けてくださっている方々がいらっしやることは奇跡のように感じました。更生保護女性会の方々は、震災時、地域の一大事に、「なんとかしなくちゃ！ほつとけない！」精神で女性として、生活者の視点からきめ細やかに被災者のニーズに応える支

「あたりまえ」といふこと



さいたま保護観察所長  
吉田 千枝子

援をしており、押しつけではなく、継続して共に助け合うことは地域の一員として「あたりまえ」であるとしていました。また、保護司である住職は、被災者に寺を開放し、福島自立更生促進センターでは、近隣の学校に避難している被災者に浴室を開放しました。困っている者をその地域で支援し、助け合うことが自然に行われていたのです。

犯罪者も地域の生活者の一人としてとらえて、その支援ニーズに応じていくためには、地域の多種多様な機関や制度を総動員し、コーディネートをしていく仕組み、仕掛けが必要です。更生保護を含む司法機関がその責任を十分果たしていく使命や必要があるのはもちろんですが、地方自治体に社会復帰支援ネットワーク構築の先頭にたっていたいただくことが望まれます。



# 「新潟・長岡……」の連想より



蕨・戸田地区保護司会

会長 本橋 恵子

ある日の新聞記事で、新潟、長岡、米百俵、という文字に出会い、私は瞬間的に今は亡きある人とある話を思い出しました。

「えつ、恵子くん、保護司をしているの？ それはいいねえー。頑張ってるの？ 頑張ってくださいよね。実は僕の父親もね、その世界で仕事をしていたんですよ。親父は新潟・長岡の漢方薬店の息子でね、貧乏でねえ、上級学校に行けず、刑務所の小遣いさんみたいな仕事に就いたらしいんですよ。親父は真面目な努力家ですね、最後には認められて、退職する時は栃木刑務所の所長でした。僕たちが大きくなった頃、釈放されても帰る家のない人を自分の家に泊めてね、面倒見ていましたよ……。いつも誰かしら女の人がいきましたね。多いときは4人いたかなあー。」と、思い出話のようにしてくださったのは、中学時代の恩師・藤井均先生である。

多分その頃は、更生保護施設も十

分でなかったのかも知れないが、私は驚き、只々頭が下がり、感激した。と同時に、先生の人に対する慈しみと、凜とした厳しさを兼ね備えたお人柄を想い、納得した思いがした。

東京高等師範卒の藤井先生は、本来、高等学校の教師になる予定だったが、故あって、義務教育界に生涯を捧げられたのである。

半世紀以上前の話になるが、中学校教師時代のエピソードも有名だ。クラスに、喫煙、暴力、怠学等々の問題生徒H君がいた。授業中、窓から逃げ出したH君を自転車で追いかける途中、前輪がでこぼこ道の大きな穴に落ち込み、地べたに叩き付けられて激痛で動けぬ先生に戻り、駆け寄ってきたH君が「先生ヨオ、大丈夫か？ どっか痛くしなかったか？」と心配してくれ、汚れた服の泥を払ってくれた、という話。どこか救われる思いがする――。

連想に浸った「ひととき」でした。

# 一歩ずつ進める明るい社会づくり



蕨市教育委員会教育長

松本 隆男

「蕨・戸田地区保護司会だより」第5号の発刊にあたり、御挨拶申し上げます。

保護司の皆さまには、更生保護活動はもとより、教育行政においても、いじめ問題の対策や青少年の健全育成への御指導・御助言など、日頃より多大なお力添えをいただいております。教育長として、心からの敬意と感謝を申し上げます。

まず。こうした姿を拝見すると、貴会の地道な啓発活動が着実に実を結び、安全安心なまちづくりの一助となつていことを実感いたします。

今後、子供たちの健やかな成長のため、一層の御支援を賜りますようお願いするとともに、貴会の更なる御発展を祈念申し上げます。挨拶いたします。

近年、社会的孤立や青少年を取り巻く環境の変化から、子供たちが犯罪に巻き込まれる危険性が増しています。事件や事故を未然に防ぐためには、市民一人ひとりが更生保護への理解を深め、地域ぐるみで見守りへの意識を高めることが重要だと考えております。そうしたなか、本市で開催される「社会を明るくする運動推進大会」では、毎年、青少年健全育成に関するテーマの講演会が行われ、子育て中の方から教育関係者まで多くの人が熱心に耳を傾けてい





社会を明るくする運動

蕨支部

蕨支部の社会を明るくする運動は、孤立する女子高校生をサポートする活動を行っている「女子高生サポートセンター Colabo」代表理事である仁藤夢乃（にとうゆめの）先生を講師にお迎えし「心の通い合う地域の絆」と題し先生自らの体験を交えた、居場所のない高校生や搾取の対象になりやすい青少年の問題の発信や日常的な関わりを通じて少女の支援を行っている活動内容を中心としたお話で、映像を交えた深刻な場面もあり参加者も真剣に聞き入っていました。

今年例年使用していた会場が耐震化工事で使用できないため、会場を変更しての開催でした。

例年と勝手が異なるにもかかわらず支部保護司一同が一致協力して会場の設営や参加者の案内に汗を流し無事終了できました。関係団体や機関のご協力のたまものと感謝しております。この講演をこれからの活動に活かしていきたいと思えます。

(小槻保美)

戸田支部

戸田支部では今年度も7月1日市内3駅で啓発物を配布しての駅頭キャンペーンを実施致しました。市長はじめ、福祉部長・戸田市福祉保健センター職員・戸田市暴力排除推進協議会など多くの方々のご協力を戴き、保護司会、更生保護女性会に依り実施致しました。

午後5時台で昼間の猛暑がまだ残る中での活動に皆、気合が入ります。せわしく行き交う人の中には立ち止まり「今年も大変ご苦労様です。頑張ってください。」と、応援と励ましの言葉を掛けて下さる方もあり従来からの積み重ねに手応えを感じる場面もありました。

この社明運動の趣旨が広く理解され各方面に深く浸透し、より多くの方々から賛同が得られる契機となれば素晴らしい事だと思えます。

仲々地道な活動ではありますが今後とも皆様のご協力をお願いします。

(春山嘉正)



学校との連携

武南中学校

7月7日武南中学校訪問

武南中学校へ山内会長と塚越地域のメンバー4名で初めて訪問をしました。

挨拶自己紹介の後小松校長先生の案内で授業参観及び校内見学、それから中学校の概要と今年度の行事等の説明をしていただき引き続いて意見交換をしました。

学校側からは、子どもたちは現在県内各地より通学しているが特に素行等には問題はないとのこと。夏休

み期間中には、三者面談と非行防止教室を行い注意している。まだ開校して間もなく、昨年度第1回の卒業式を行った中学校であり、私学ならではの学びの環境が充実している。と説明がありました。蕨市内の中学校はこれで公立3校私立1校の計4校となり、これからの教育が切磋琢磨されることとなるでしょう。

この度の武南中学校訪問におきましては、小松校長先生（前蕨市立東中学校長）の計らいで実現しました。感謝申し上げます。

(平山憲司)



講堂



フリースペース



小松校長



調理室



施設参観

甲府刑務所



参観された蕨市・戸田市の保護司の皆さん

暴力団関係者も多数、外国人も1割強います。

参観内容は、刑務所長による施設概要の座学と刑務官が前後左右で警備しながらの施設内見学です。各作業箇所それぞれ刑務官が配置されて非常に統制のとれた作業体制が敷かれているので、恐怖感はありませんでした。

収容されている人たちが作る甲府刑務所の作業製品で好評を博しているのが、丁寧な作りでかつ丈夫で良質の皮を使用した応接セットです。市価の半額以下のせいもあり即売会ではすぐ完売するそうです。

平成29年5月16日、毎年恒例の矯正施設参観を行いました。参観先は山梨県甲府市の甲府刑務所、参加者は蕨市・戸田市から31名の保護司と事務局の33名でした。

甲府刑務所は、山梨県でただ一つの行刑施設で未決拘留者を収容する措置区も併設されています。収容分類はB級と言いい、成人再犯者で刑期8年未満の短期処遇の男子刑務所です。収容定員は600名で内訳は薬物乱用者や窃盗累犯者が6割を占め、



山梨県立美術館の皆さん

視察の後は、ミレーの絵画で有名な山梨県立美術館で心を癒しました。ご存じのとおり、ミレーは19世紀フランスで活躍したバルビゾン派の画家で農村風景を描いた「種をまく人」、「落ち穂拾い」の作品が収容されています。自然豊かな山梨県にふさわしいコレクションとして全国的に知られています。

今回の施設参観は天候にも恵まれ、刑務所参観と美術館鑑賞などで保護司同士の交流も深まり、充実した内容でした。

(大山正治)

蕨・戸田保護区の現況等

さいたま保護観察所

保護観察官 笠谷千尋

平成28年度から蕨・戸田保護区の保護観察及び生活環境の調整を担当させていただいております。常日頃更生保護の諸活動に多大な御尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

最近の当保護区の状況をみますと、保護観察では窃盗事案が多いですが、生活環境の調整では詐欺、特に高齢者が被害に遭う「なりすまし詐欺」の事案が少し増えてきているようです。覚せい剤など規制薬物の事案で受刑しているケースもやや増えてきています。全体を通してみると、福祉的対応や地域連携を要するケースが多くなってきた印象があります。今後更生保護はますます地域と連携し、ご協力をいただきますながら取り組んでいくことが求められているとあらためて感じているところでです。

犯罪を犯してしまう人々というのは、本来本人の自助自立の責に帰すべきところが大きいのは当然ですが、一方で、家庭・社会の中で疎外されたり、適切な支援を得られずに立ち直りの機会を生かせずにいるこ

とが多いというのもまた現実としてあります。私たちは、更生保護の諸活動の中で、社会の中にそのような形で犯罪に至ってしまう人々が少しでも減るように尽力していきたいところではあります。

これからの、犯罪を犯してしまう人が少なくなり、また保護観察の対象者については改善更生していつてもらえるよう取り組んで参りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

蕨・戸田保護区の現況(平成24年～28年)

区分	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
保護観察数(件)	77	68	66	52	61
生活環境調整数(件)	72	81	67	68	61
保護司数(人)	52	54	58	54	57

※各年4月1日時点



# 第64回埼玉県更生保護大会

平成29年11月22日、埼玉会館大ホールにて埼玉県更生保護大会が保護司等更生保護関係者約1200名の参加を得て盛大に開催されました。

式典の前に認定NPO法人「抱樸」奥田知志理事長による「伴走支援とは何か？」と題する講演が行われ、社会的困窮の解決も

大事だが、社会的孤立の解消も大事とする保護司にとっても大いに役立つ中身の濃いお話でした。

式典では、当保護司会から全国保護司連盟理事



大会副会長 本橋恵子氏  
大会辞し 務めた

長表彰2名をはじめ他の表彰4名が受賞の栄に浴されました。  
(大山正治)

全国保護司連盟理事長表彰

長瀬 文雄 (戸田)

御嶽 隆英 (戸田)

関東地方保護司連盟会長表彰

瀧澤 林三 (蕨)

平井 恵子 (蕨)

さいたま保護観察所長表彰

小槻 保美 (蕨)

埼玉県保護司会連合会長表彰

大山 正治 (戸田)

## 保護司の異動

退任

武内 尚義 (戸田)

渡邊 彰七 (蕨)

三明 滋 (蕨)

退任にあたり

新任

浦野 一郎 (戸田)

山崎 修司 (戸田)

武内尚義

保護司を引き受けた当時は不安と後悔の毎日でしたけれども、多くの人達と関わりを持ち私自身も多くのことを学び、大変有意義な年月を無事に終えることが出来ました。現在

は此の様な機会を与えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

渡邊彰七

保護司になり最初の一人を担当し終えて、その様子を研修会で発表しときがありました。こんな発表でいいのかなと思っていましたが、そのとき皆様から温かいお言葉をかけていただいたことを今もありがたく感謝しています。それが励みとなり保護司を続けてこられました。悪いことをしたり、罪を犯したりした人も、普通の人と同じように接することをいつも心がけています。

## 叙勲の喜び

### 瑞宝双光章を拝受して

山内俊和 (蕨)



平成29年春叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章を拝受し、栄に浴することが出来ましたことはほんとうに身に余ることです。長年にわたり皆様方のご支援、ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

平成29年5月10日、法務省において勲記・勲章を拝受し、続きまして皇居に参内し、豊明殿におきまして天皇陛下に拝謁し、有難いお言葉を賜りました。厳かな時間の流れのなか多くの受章者の皆さまと共に喜びを分かち合いました。今後も感謝の気持ちに報いたいと存じます。

### 瑞宝双光章

細田昌宏 (戸田)



### 藍綬褒章

秋元豊子 (戸田)



平成29年秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章の栄に浴し誠に有難く厚く御礼申し上げます。これも偏に皆様の永年にわたる心温かいご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝申し上げます。

今後も保護司会の一人として頑張りますので、変わらぬご厚情を賜りますようお願い致します。

平成29年秋の褒章に際しまして、はからずも藍綬褒章を拝受し、栄に浴することができましたことはほんとうに身に余ることです。

平成29年11月14日、法務省において褒章を拝受し、続きまして皇居に参内し、宮殿の豊明殿におきまして天皇陛下に拝謁し、有難いお言葉を賜りました。厳かな時間の流れのなか多くの受章者の皆様と共に喜びを分かち合いました。今後も感謝の気持ちを忘れずに保護司期間もわずかですが、最後まで全うしたく存じます。



サポートセンターだより



第7回健康福祉まつりで保護司会ブース



第7回健康福祉まつり  
～笑顔と健康！元気なまちと～

者の面談等の業務を行っていません。特に、同一事件で数人の対象者を数人の保護司で保護観察を担当している場合など情報交換の場として適切な使用をしています。

また、保護司の仕事を一一般の方々にPRする場所として、このセンターで毎年開かれている「健康福祉まつり」にも参加しています。これからの、新人保護司の育成、他団体との交流、情報交換の場として活用していく予定です。

(大山正治)

第3回世界保護観察会議 in 東京 2017 9/12~14

世界各国の保護観察実務家等が、学術、実務の両面から意見交換を行い、社会内処遇の普及、発展、国際ネットワークの拡大を期する会議です。

第1回会議(2013年)はロン

ドン、第2回会議(2015年)はロサンゼルス、そして昨年9月12~14日、アジア初として日本で開催されました。

海外からの参加者は、保護司宅、更生保護施設、矯正施設等を訪れ、

平成30年度 年間事業計画 (案)

2月	1月	12月	11月	8月	7月	5月	4月	
役員会 第4期地域別定例研修	広報誌発行 保護司候補者検討協議会	年末保護強化研修 第3期地域別定例研修	役員会 第65回埼玉県更生保護大会	役員会 第2期地域別定例研修	保護司候補者検討協議会 社会を明るくする運動	県外研修	総会 第1期地域別定例研修 サポートセンター運営(4月~3月)	平成29年度監査 役員会

民間協力者に支えられていることや矯正施設と連携した社会内処遇について理解をいただきまし

た。(法務省ホームページより)

(細井玲子)



編集後記

保護司になって4年目でこの会報の編集を仰せつかることになりました。

私は39歳から4年間、戸田市役所で広報を担当したことによるご推薦ではないかと思えます。今から30年前のことです。今から30年前のことです。今から30年前のことです。今から30年前のことです。今から30年前のことです。

この5号は第1回目の編集委員長です。前号までのものをほぼ踏襲する内容です。保護司会という性質上、会報内容の枠は当然ありますが、読者の皆様には、更生保護に関するご理解・ご協力をなお一層進めていただきたく、読みやすい内容を心がけていきたいと思えます。

編集委員長 大山正治

編集委員

- 泉山 高子
- 大山 正治
- 奥住美千子
- 小槻 保美
- 春山 嘉正
- 細井 玲子
- 本橋 恵子
- 山内 俊和
- (50首順)